

2023 年度

一般選抜入学試験 問題集

国語総合



共栄大学

教育学部 / 国際経営学部

I 次の文章を読み、設問に答えよ。

自然は、常に変わる。

これが、今の私の「自然観」だ。

かつては、太古の昔より変わらないものこそ自然というイメージを持っていた。その自然に対して、人間がちょっとした変化を出し、変えようとするところから問題は生じる。自然は乱れ、予想もしない変化を示し、人間にしばしば返しを食らわせる……。だから人間は自然への影響を小さくする必要がある、と語っていた。

だが、少しずつ自然界で起きている様々な事象を知り、その意味するところを考えているうちに、むしろ人がいようとまいと、手を加えようと加えまいと、自然とは常に動き続け、変わっていくものだということがわかった。

何もない裸地は、時間とともに苔や草が生え、低木が育ち、生長の早い先駆種の樹木によって雑木林となる。それも時間が経つと、常緑系のゆっくり大きく育つ種に置き換わって天然林となる。それはやがて一切の人為を感じさせない原生林となるが、この状態さえも時間は変えてしまう。火災や洪水、老木の倒壊、気象の変動による樹種の変化、みんな原生林を安定させずに次の段階へと移り変えていく。そうした「破壊」は、新たな自然の始まりだ。生物の種類や数は変化し、全体として生物多様性は保たれる。

人間の活動も、その中に含まれる。日本人は、一度国土を丸裸にしたが、丹念な努力によって再び緑を甦らせた。また農林業と巧妙に結びついた里山の生態系を生み出した。しかし、再生した緑は、今度は放置されることで、変化を続けて人間にとって好ましくない状況に陥りつつある。

日本だけではない。たとえばヨーロッパは、かつて全域が深い森林に覆われていたが、中世以降にはほとんど伐採されてしまった。イギリスは、牧場を広げ続けた結果、森林率は前世紀初めで三〇程度になった。今では約一〇％まで回復しているが、裏返せば、現在の森林の大半が、人工林ということだ。また牧場の周りに隣の牧場との境界線として残された茂みは、常に人が手入れを怠らず維持してきたところであり、そこには独特の生態系が成立している。これも小規模ながら日本の里山と同じであろう。

フランスに広がる地平線が見えそうなたおやかな田園風景も、森林破壊の長い歴史の結果だし、北欧にも原生林と呼べる森林はそんなに多くない。

広大な熱帯雨林の広がるアマゾンやボルネオさえ、人の手が入っている。最近の研究では、アマゾンのジャングルも三分の一から三分の二が先住民によって作られた森であるという。ブラジルのエミリオ・ゲルジ博物館の研究によると、アマゾン川支流のシングレー川流域の木々の九八％までが、

カヤポ族が利用する樹種だと報告している。しかも、偏った分布をしており、明らかに人が使うのに便利なように配置されていた。こうした利用する木を植えて育てた森林は、アベテと呼ばれている。人工林と言っておかしくないだろう。

カヤポ族だけでなく、ほかの少数民族も同じだ。しかも、彼らはいよいよ焼き畑と採集生活を行ない、ジャングルの中を移動している。そのため、人為を受けた森林は広がっていく。アマゾンだけでなく、ボルネオやニューギニアの先住民の農耕も、想像以上に植生に影響を与えていることを示す調査結果が出ている。

「自然は、常に変わる」ということを前提に、人間がどのように自然と向き合うべきかという命題も考えてみるべきだろう。

そこで重要なのが、「人はどんな自然を求めているのか」ということだ。なかには移り変わる自然でもよいという考え方もあるだろう。それも一理ある。しかし、それで人間は心地よく生きていけるだろうか。春になると花が咲き乱れる自然、秋には全山が紅葉する自然。それらを愛でていたのに、自然の移り変わりで美しい景観が失われることもある。あるいは、身近な自然だった雑木林が天然林に変わること、子供の頃から親しんでいた野の花が消え、採集して遊んだ昆虫の姿が見られなくなることも起こる。それでもよい、と断言できるだろうか？ 沙漠化の進行も、自然の成り行きだと座して見守るのか？

そこまで自然に隷属することはないというのが、私の立場である。
人間が自然を破壊することに対して「自然は人間がいなくても何も困らないが、人間は自然なしには生きていけない」と語られることがある。

後半は、たしかにそのとおりだと思う。人は自然界に食べ物も住むところも、呼吸する空気も依存しているのだ。さらに自然物をすべて排除した環境で送る生活が精神に及ぼす影響を考えても、ぞつとするとしか言いようがない。人は自然なしに生きられない。が、前半はどうだろう。人間がいなくなっても自然は何も困らないのだろうか。

人間の営みがなくなると、里山の生物のように生存が難しくなる動植物も少なくないはずだ。雑木林には雑木林の生態系に適応した動植物が生きている。それが天然林に変われば生息できなくなり、別の動植物が繁栄するかもしれない。傍目から見れば、同じ緑であり似たような昆虫とすることも出来ないが、個別の種にとっては絶滅と繁栄の分かれ目である。

少なくとも現在そこにある自然は、人がいることで成り立っているものが少なくない。人為を受けないで存在している動植物は、人為が消えて生態系が変化した際に生き残れない。

ここで冒頭の「自然は、常に変わる」という命題にもどるのである。人間と自然を対立物として見るから、人がいなくなっても自然は困らないと思いがちだが、実は自然も人間に依存している面

があり、人がいなくなると困るのではない。
 B 人間は、否応なくキーストーン種になった。キーストーンとは、生態系全体に影響を及ぼす核となる生物種のことだ。その種の動向が、自然界全体を揺るがす可能性がある。今のところ、人間の役割を代替えるような種の存在は見つかっていないから、もし人間がいなくなれば、自然界も大変動を引き起こすだろう。

少し脱線するが、「進化」という言葉がある。生物も不変ではなく、長い年月をかけて変化していることが認められている。その過程を進化と呼び、その進化を引き起こす要因を考える進化論は、今も魅力的なテーマだ。

その中で最近よく耳にする言葉が、「共進化」である。異なる生物が、ともに関係ある形で進化し、お互いが切っても切れない関係になることである。

たとえばランの一種は、あるハチドリだけに花の蜜を吸わせる。ハチドリはこの花の蜜を吸えるように、嘴の形を変えた。ランは、この鳥の嘴でないと蜜のあるところまで届かないように花弁を変容させた。言い換えるとハチドリは蜜を独占できる。ハチドリは同じ種類のランだけ訪問するから、ランの受粉の確率は、格段に高まった。これは、どちらかが先に進化して片方がそれに合わせたわけではない。示し合わせたように同時期に嘴と花弁の形を変え、双方が利益を得るようにしたのだ。

別の種、それも植物と鳥が、まるで相談し合ったようにお互いの姿を変え、どんな自然界の意志があったのだろうか。この共進化の事実こそ、私は自然界の偉大なる妙味だと思っている。

自然界と人間は、まさに共進化を遂げてきたのではなからうか。自然は人に与えるばかりではなく、人間の活動の影響を受けて変わってきた。人も自然の変化に合わせて自らの生活を変えてきた。だから人は自然に合わせて生活を変える一方で、自然も人に合わせる面があってもよいと思えるのだ。花咲く春と、紅葉の秋を守るために人が自然に手を加えることを

自然と人の関わりを考察しているうちに、「自然とはシステム」だと考えることはできないか、と思いついた。自然を定まった存在としてではなく、常にいくつもの条件が絡み合い変化するシステムとして見るのだ。

そこでは自然と人間社会を厳密に線引きするのではなく、自然が成立する一要素として人間の活動も含まれる。たとえば降水量の量や年間を通じた気温の変化は、自然界を作り上げるのに重要な役割を果たしている。同じく人間の活動も、自然の成立に大きな影響を与えていることを認めてしまおう。人と自然を対立させることなく、人間の活動も自然の一部として見れば、人の暮らしそのものが生態系を作り出す要素だと見ることが出来る。

人と自然は持ちつ持たれつである。どちらが優位に立っているとも言えない。ただ気をつけたいといけないのは、現在の生態系は、光、水、気温など実に様々な要素が極めて複雑に作用することで、形作られている。そこには人の知恵では予想もしないつながりが、まだ隠れているかもしれない。

それだけに人間の行動には慎重さが要求される。人の活動も自然の一部なら、自然をコントロールすることもできるといった思い上がった意識を持つのは危険だろう。人の都合にいいようにとか、環境によかれと思つて行なつた行為にもかわらず、逆の結果を引き起こすことも少なくない。

たとえば害虫を殺そうと殺虫剤を撒くと、害虫の天敵も殺してしまふ。その反面、害虫は薬剤への耐性を身につけて薬が効かなくなることもある。すると、

乾燥地や荒地を緑化するために、生長の早い草や乾燥に強い木などを地域外から持ち込んだところ、在来の生物を圧迫してしまふ事例もある。それがきっかけで、地域の自然がガラリと変わってしまうことも起こり得るのである。

自然は常に変わる。だが、変わり方にもルールがある。自然界の掟に沿つて時間をかけて変わるのではなく、短絡的な人間の思いで手を加えると、取り返しのつかない事態もあり得るだろう。

(田中淳夫『森林からのニッポン再生』による)

1 傍線部 A「自然は人間がいなくても何も困らないが、人間は自然なしには生きていけない」とあるが、筆者はこのことについてどのように考えているか。次の 1〜5 のうちより最も適当なものをつ一つ選べ。

- 1 人間が自然なしにいられないのは当然だが、自然も人間生活の影響を受けており、人間がいなくなると生き残れない動物がいることを考えると、人間なしには成り立たないことが多い。
- 2 人間は自然に依存しているので自然なしでは困るが、自然は人間が減びても他の動植物が繁栄することで全体のバランスを保つことができるので、人間がいなくても何の影響もない。
- 3 人間は自然物を排除したとしても科学技術が発達しているため生存しているし、自然も人間がいなくなったところで環境全体としての大きな変化ではないため、何も困ることはない。
- 4 人間は生活環境を自ら作り出すことができるので自然がなくてもあまり困らないが、自然は人間の活動に強く影響を受け支えられているので、人間がいなくなると成り立たない場合が多い。
- 5 人間と自然は「持ちつ持たれつ」の関係なので、互いに高い影響を与えながら命を長く保っていることになる。よって、どちらかがいなくなったらどちらもいなくなってしまうことになる。

2 傍線部 B「人間は、否応なくキーストーン種になった」とあるが、この場合の「否応なく」の意味は何か。次の 1～5 のうちより最も適当なものを一つ選べ。

- 1 自分の能力をわきまえずに。
- 2 自分の意志とは無関係に。
- 3 自分の希望どおりに。
- 4 自分の予想とは裏腹に。
- 5 自分の否定的側面を反省し。

3 四角囲いをした段落の役割はどのようなものか。次の 1～5 のうちより最も適当なものを一つ選べ。

- 1 それまでに述べられた筆者の意見と反対の意見を紹介して、問題の所在を明らかにしている。
- 2 それまでに述べられた筆者の意見に適合する具体例を示して、論旨を理解しやすくする。
- 3 それまでに述べられた筆者の意見とは異なる内容を取り上げて、話題の転換を図っている。
- 4 それまでに述べられた筆者の意見を要約することによって、問題点をいつそう強調している。
- 5 それまでに述べられた筆者の意見は一般的ではないので、皆が知っている言葉で言い換えている。

4 傍線部 C「この共進化の事実こそ、私は自然界の偉大なる妙味だと思っている」とあるが、筆者がこのように述べた理由は何か。次の 1～5 のうちより最も適当なものを一つ選べ。

- 1 どの時代も生態系全体に影響を及ぼす核となる生物種が存在し、自然界を描るがす大変動を起こして生物全体の進化を促進してきたと考えるから。
- 2 あらゆる生物は長い時間をかけて変化していることが認められ、その変化を引き起こす要因を考える進化論は今も魅力的なテーマだと考えるから。
- 3 異なる生物どうしが互いに利益を得るように進化し、切っても切れない関係を結び合うことは自然界の見事な意志が働いていると考えるから。
- 4 どのような生物も長い年月をかけて互いに影響を及ぼし合うことによって進化し、人為が引き起こす自然界の変動を抑制してきたと考えるから。
- 5 自然界は人間が全く及ばないような偉大な力を持っており、一見すると共進化も人間の力が働いているように思われるがそれは違うと考えるから。

5 空欄 ア に入るものとして最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 肯定する
- 2 区別する
- 3 許容する
- 4 非難する
- 5 凌駕する

6 空欄 イ に入るものとして最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 殺虫剤を撒けば撒くほど害虫が大発生する
- 2 まずは強力な殺虫剤をつくり出すことになる
- 3 逆に人間が殺虫剤に殺されてしまう
- 4 害虫の天敵が絶滅危惧種に認定されてしまう
- 5 全く新しい方法で害虫を駆除する方法を考える

7 本文の内容を説明しているとして適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 ハチドリは嘴の形を変えることによって、さまざまな花の蜜を吸いやすくなった。
- 2 自然は人間の暮らしを含めたさまざまな要素によって、常に変化するものである。
- 3 乾燥地を緑化するためには、地域外から植物を積極的に持ち込むべきである。
- 4 自然をシステムと考えれば、人間の活動より自然の変化を優先するべきである。
- 5 自然は太古から変わらないというイメージは大きな誤りであり、むしろ自然は常に動き続け変動するものだから、人間が自然に与える影響を考慮する必要はない。

8 本文の構成を説明しているとして最も適当なものを、次の 1～5 のうちより一つ選べ。

- 1 筆者は、最初に自然に関する自分の考えを具体的な例を示しながら説明し、最後に自分の考えと対立している自然に関する一般的な例を紹介している。
- 2 筆者は、最初に問題提起をして一応結論を述べたあと、自然と人間の関係について具体例をふまえて説明し、加えて人間の取るべき行動について注意を促している。
- 3 筆者は、自然保護に関する難しい考えを様々な具体例を用いることでわかりやすく説明し、最後にこれからの保護活動の望ましい在り方について結論を述べている。
- 4 筆者は、従来の自然保護に関する考え方の不備を指摘することをこの文章の主題とし、自分の指摘の根拠となる具体例を豊富に提示している。
- 5 筆者は、今まで当たり前のようにならな考えられていた自然に関する考えを真っ向から否定しながら、最終的には今までの考えを容認するという誇張した構成を工夫している。

II 次の文章を読み、設問に答えよ。

ルービックキューブを頭の中に思い描いていただきたい。六色の異なる色で構成されている立方体が浮かんでくるであろう。そして、目を凝らすと、それぞれの面を塗りつぶしている色は、実は九つの小さな正方形が集まったものであることも見えてくるであろう。

表現とは、対象についての価値判断である。対象となる事柄は、さまざまな価値が混在している状態であると言える。これは、ばらばらな状態にあるルービックキューブをイメージしてもらえばわかりやすい。まず表現者は、ばらばらになっている色をそろえていくことになる。小さな正方形に着目し、同じ色のものを一つの面に集めていく。すると、六色の色に整理できる(現実の事柄はより多様であるが)。この色の中から自分の色を一つ選び取り、その色についての価値判断を下すわけである。

この事柄は赤である。よって過激である

ということになる。

ネットいじめについて考えてみると、いじめる側はこのような表現の論理を理解していないことが考えられる。つまり、ある事柄については一色であると思いつているのである。事柄はさまざまな価値観が混在していること、異なる立場から事柄を眺めると異なる色も見えてくるということがわからないのである。よって、自分と違う色の立場の者が許せず攻撃をしてくるのである。

しかし、異なる立場になれば異なる色が見えてくると理解している者もいじめる側に回ることもある。これは、色の決め方について理解をしていないからである。同じ色になるということは、対象についての考察(判断や感想)が同じだということ、つまり対象を眺める立場が同じであるということである。しかし、その色の決め方は実に多様なのである。

各色は「九つの小さな正方形が集まったもの」であると前述した。同じ色の正方形は同じカテゴリーに属す具体物と考えてよい。この具体物を集積させることによって抽象的な概念である色を形成しているのである。日常の表現で考えた場合、この正方形は対象を構成する具体例、つまり実際に起こった出来事にあたるものである。われわれ人間も、同じカテゴリーに属す(同じ色合いの)具体例を集めていくことによって事柄全体の色を決めていくのである。

ただ、人間はルービックキューブのようにすべての具体例を集めた上で考察するのではない。一、三の具体例から事柄を考察してしまうことが一般的である。つまり、対象となる事柄について赤っぽい正方形が二つ見つかったと、そこから「この事柄は赤だ」と考察してしまうことになる。よって、

同じ考察であってもその根拠となる具体例が異なっている可能性も大きいのである。前述の表現で示せば、

アとイからこの事柄は赤である。よって過激である。

となる場合もあるし、「ウとエから」という場合もあることになる。ここを理解していないと、同じグループの中の裏切り者のように見えてしまうことになる。

「アとイから事柄は赤である」というように、具体例をもとにして考察し判断を下す思考を帰納的思考、「赤である。よって過激である」というように、考察したことから価値判断を行い意見や主張を展開する思考を演繹的思考と言う。人間は、この二つの思考を組み合わせて表現していることになる。人々の表現の違いは、この思考の在り方の個性にあると言える。

ネットいじめを防いでいくための「言葉の力」を育成していくには、この二つの思考のあり方の個性を認識した上で対話力を育成していくことが重要となる。

以下に『社会科見学』後のP君の表現を例にあげる(骨子のみ)。この表現を受けて対話がはじまるものとする。

① 電車の中でゲームをした
 ② バスの中ではお菓子を交換した
 ← (帰納的思考)
 社会科見学はとても楽しかった
 ← (演繹的思考)
 またみんなどこか出かけてみたい

対話の対象となる事柄は『社会科見学』となる。P君は、その事柄について「楽しかった」と考察し(その考察は「①ゲーム」「②お菓子交換」という具体例から帰納的に導かれている)、この「楽しかった」という考察をもとにして演繹的に「また行きたい」と価値判断である主張を展開していることになる。

これに続く対話は、P君の思考の在り方の個性を認めた上で、さらに事柄に対するP君の認識が深まっていくようなものである必要がある。例えば以下のふたつの方向性が考えられる。

《対話の方向性1》

Q 君 — うん。とても ア 。マリンランドでは イ 。

P 君 — それに、鶴ヶ丘八幡宮では ウ 。

《対話の方向性2》

R 君 — そうだね。それに、とても エ 。

P 君 — うん。鎌倉の大仏は オ 。

方向性1でのQ君は、P君の帰納的思考の個性を尊重して返したことによって、新たにP君に事柄についての認識を深めさせることができた。方向性2でのR君は、P君の演繹的思考の個性を尊重しながら別の考察の在り方も示すことによつて、新たにP君に事柄についての認識を深めさせることができた。

このような方向性を組み合わせながら対話ができるということは、相手の立場が尊重できることであり、それはネットいじめも防いでいくための基盤となるものとなる。

(光野公司郎「表現の原理を理解する重要性」『心を育てる学級経営』による)

9 波線部A「面を塗りつぶしている色」と波線部B「九つの小さな正方形」は、象徴的な表現

である。傍線部aの言葉は、この二つの表現のうち、どちらのニュアンスに近いと言えるか。「面を塗りつぶしている色」の場合は1と、「九つの小さな正方形」の場合は2と解答せよ。

10 9と同様に、傍線部bの言葉は、どちらのニュアンスに近いと言えるか。「面を塗りつぶしている色」の場合は1と、「九つの小さな正方形」の場合は2と解答せよ。

11 空欄 ア に入るものとして最も適当なものを、13の後に示す1～10のうちより一つ選べ。

12 11と同様に、空欄 エ に入るものとして最も適当なものを、13の後に示す1～10のうちより一つ選べ。

13 11と同様に、空欄 オ に入るものとして最も適当なものを、次の1～10のうちより一つ選べ。

- | | |
|---------------------------|-------------|
| 1 内部に入ると暑くて暗くてふらふらしたよね | 2 感動したよね |
| 3 イチヨウに住むリスが手からエサを食べてくれたよ | 4 疲れてしまったよね |
| 5 写真のイメージよりもずっと大きかったよね | 6 がっかりしたよね |
| 7 イチヨウの大水が倒れてしまっていたよね | 8 楽しかったね |
| 9 イルカにタッチしたよね | 10 ほめられたね |

Ⅲ 次に示すものは、ある大学の教員同士(K先生とA先生)の会話である。これを読み、各設問に答えよ。

K いいよ入試の時期ですね。A先生はどのような学生が入学してくることを期待しますか。

A やはり、日本語をしっかりと使いこなせる学生に入学してほしいですね。日本語を第一言語とする人は、日本語によつてものごとを考えているわけです。日本語がしっかりと使いこなせないということは、しっかりと考えられないということですから、大学においての専門教育にはついてくることが難しくなってしまう。

K 本当にそうですね。その日本語においては、正しさはもちろんですが、豊かさも求められますね。

A 正しさと言えば、まずは漢字や語彙ですね。大学においてはレポートをたくさん書いていくこととなります。その中で必要最低限の漢字は正しく使い、さらに適切な語彙を用いてほしいですね。K 豊かさに関しては、伝統的な言語文化であることわざや故事成語、そして短歌や俳句なども常識として知っていて欲しいですね。これからの国際化社会を生きっていく上での基盤となるものですから、しっかりと理解しておく必要があります。

A また、大学生は社会においては大人と認識されますので、正しく敬語も使える必要があります。

K すばらしい新入生がきてくれるとよいですね。期待しましょう。

問一 会話文中の傍線部aについての問題である。以下の指示に従って答えよ。

(一) 14から16までの文の傍線部の読みを平仮名で書いた場合、二文字目にあたる平仮名を、それぞれ次の1～8のうちより一つ選び、番号で答えよ。

- 14 外海を漂っているボートが発見された。
- 15 迷っている彼が発言を促した。
- 16 私は友だちと寺の境内でサッカーをした。

- | | | | |
|-----|-----|-----|-----|
| 1 よ | 2 ぎ | 3 く | 4 い |
| 5 や | 6 え | 7 だ | 8 な |
- (二) 17から19までの文の傍線部の表現は適切であると言えるか。適切と言える場合は1と、適切とは言えない場合は2と番号で答えよ。

- 17 チータは、目も当てられないほどのスピードで獲物を追いかけた。
- 18 四十点と四十五点で競うなんて、十八十色と言われているように小さな違いなのだから意味がないよ。
- 19 後輩の懇懇な態度は、先輩に対して失礼にあたる。許しておけない。

問二 会話文中の傍線部 b についての問題である。以下のことわざについて指示に従って答えよ。

梅檀は双葉より芳し

20 21 の後に示す 1 ～ 10 までのことわざや故事成語の中から、同じような意味となるものとして最も適当なものを一つ選べ。

21 次の 1 ～ 10 までのことわざや故事成語の中から、反対に近い意味となるものとして最も適当なものを一つ選べ。

- | | | |
|------------------|-----------|--------------|
| 1 立つ鳥跡を濁さず | 2 正直は一生の宝 | 3 うまい物は宵に食え |
| 4 蛇は寸にして人を食う | 5 大器晩成 | 6 命は鴻毛より軽し |
| 7 時かぬ種は生えぬ | 8 鶯が鷹を生む | 9 待てば海路の日和あり |
| 10 虎穴に入らずんば虎児を得ず | | |

「大問Ⅲ・問二・問題番号 22 から 25」は著作権の関係でホームページには公開しておりません。

IV 次の文章を読み、設問に答えよ。

26 A から F までの六人は、以下五つの条件のもとで一列に並んでいる。

- ① A は前から二番目にいる。
- ② B は A より前にいる。
- ③ C と D の間に二人いる。
- ④ E は C より前にいる。
- ⑤ F と D の間に一人いる。

前から四番目は誰になるか。最も適当なものを、1 ～ 4 より一つ選べ。

- 1 C
- 2 D
- 3 E
- 4 F

【国語総合】

I		
問題	解答	配点
1	①	5
2	②	5
3	②	5
4	③	5
5	④	5
6	①	5
7	②	5
8	②	5

II		
問題	解答	配点
9	②	5
10	①	5
11	⑧	5
12	②	5
13	⑤	5

III		
問題	解答	配点
14	⑦	2
15	⑧	2
16	④	2
17	②	2
18	②	2
19	②	2
20	④	3
21	⑤	3
22	著作権の関係で ホームページには 公開していません。	
23		
24		
25		

IV		
問題	解答	配点
26	③	5



共栄大学

学務部 入試課

〒344-0051 埼玉県春日部市内牧 4158
電 話 048-755-2490 (直通)